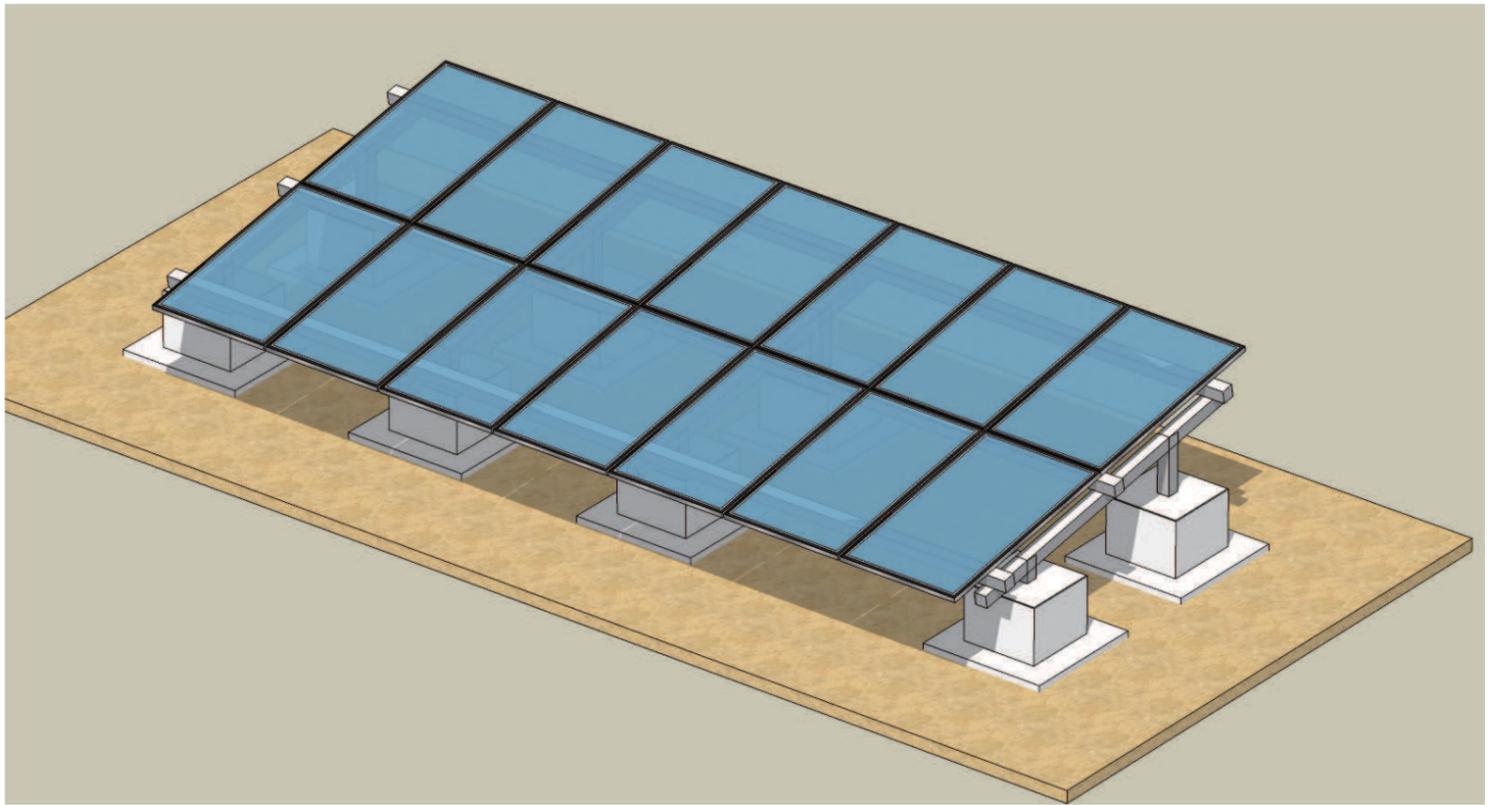


# ソーラー基礎ブロック



## ■ソーラー基礎ブロック

標準的な地域での風圧に耐えるだけの製品重量があり、施工時に現場にて高さ調整ボルト（らくピタボルト）をブロック底部に取り付けます。



## ■サンKクリア工法

らくピタボルト（写真）により80～120ミリの範囲で高さ調整が簡単にできるので、施工の省力化や工期短縮を実現。

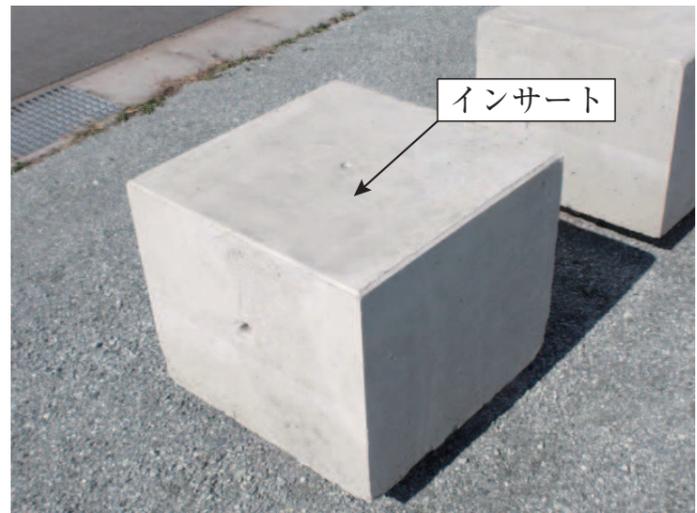
2012年7月からの再生可能エネルギー固定買取制度の開始を受けて、メガソーラー（大規模太陽光発電所）の導入に関心が高まっています。

屋根への設置だけでなく、地上への設置の需要も多くなってきました。そこで今回、地上設置用の架台基礎としまして、「ソーラー基礎ブロック」を新たに開発しました。

サイズは600×600×500mmで製品重量は430kg、ブロック底部および上面にインサートが埋め込まれており、サンKクリア工法で施工を行います。

架台基礎に必要な性能は、「重さ」、「施工の早さ」、「安さ」の3つです。これらを全て満たすのが、この「ソーラー基礎ブロック」です。

※サンKクリア工法は、(株)オクトの特許工法です。



## ■ブロック上面に架台固定用のインサート

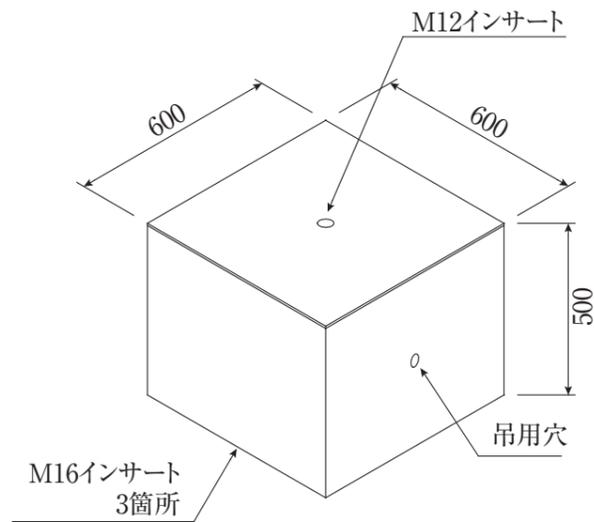
現場で穴を開けてアンカーボルトを打ち込む必要がなく、コンクリートの引抜耐力も現場打コンクリートと比べて大きくなります。

# ソーラー基礎ブロック

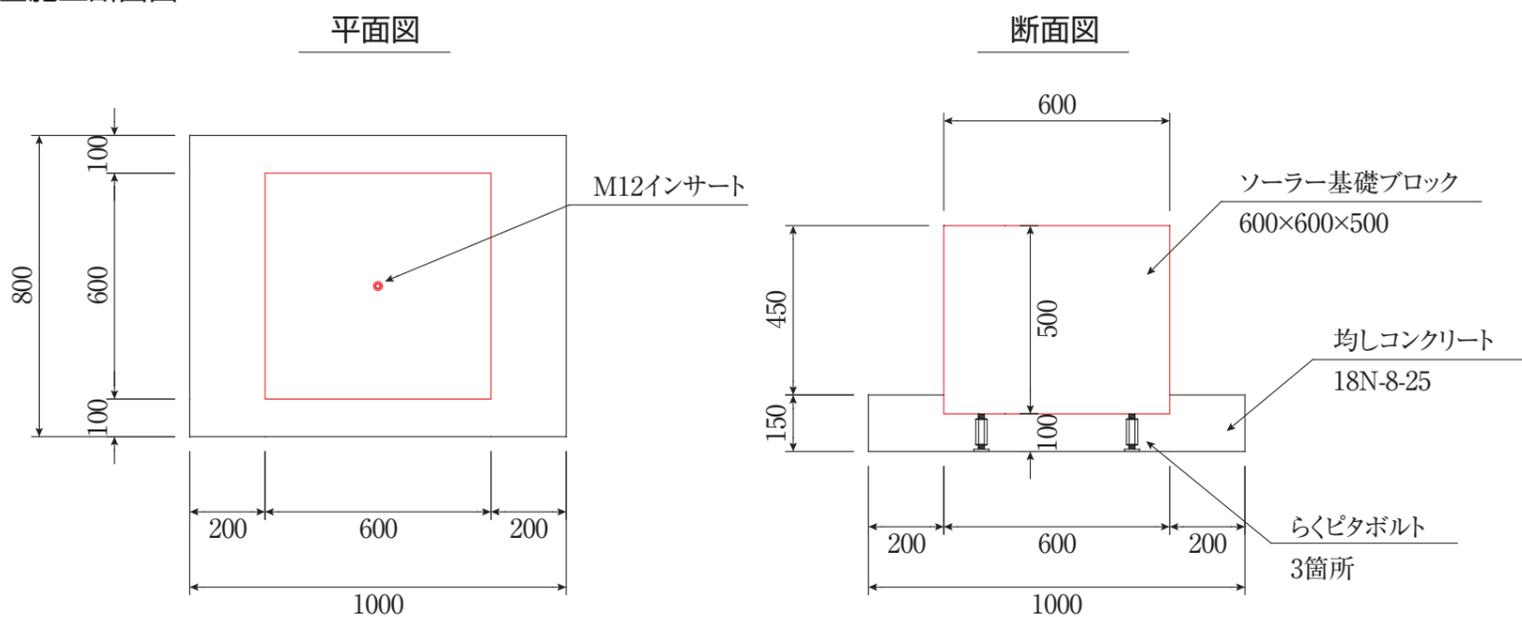
## 製品特長

### ■製品図

規格	製品重量
600×600×500	430kg



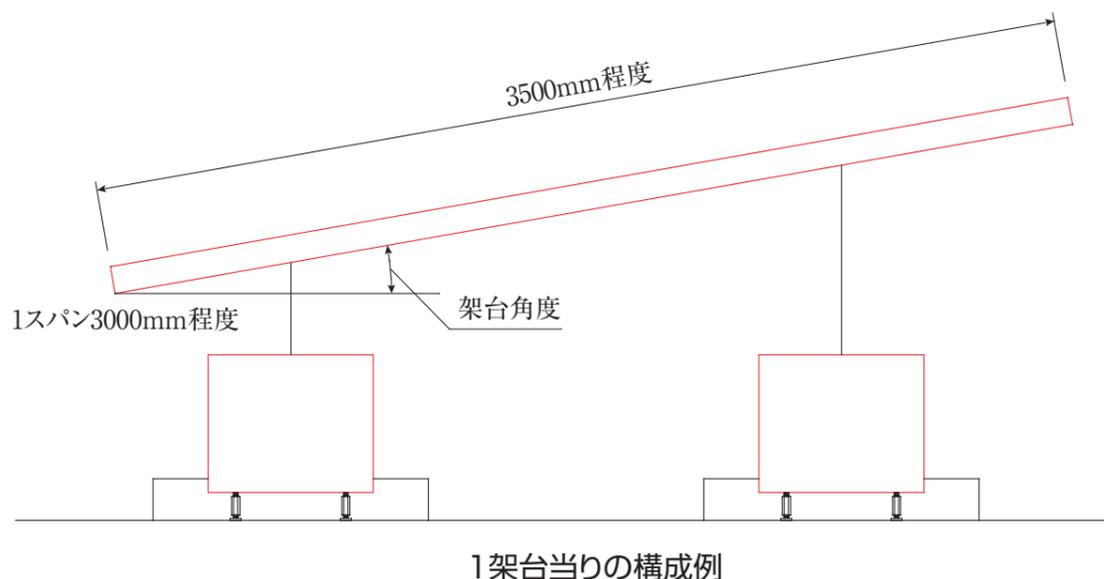
### ■施工断面図



### ソーラー基礎ブロック 材料表 (10基当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
ソーラー基礎ブロック	600×600×500	基	10	430kg/基
らくピタボルト	Aタイプ M16	本	30	3本/基
均しコンクリート	18N-8-25	m <sup>3</sup>	1.02	
均し型枠		m <sup>2</sup>	5.4	

### ■ソーラー基礎ブロックの使用範囲

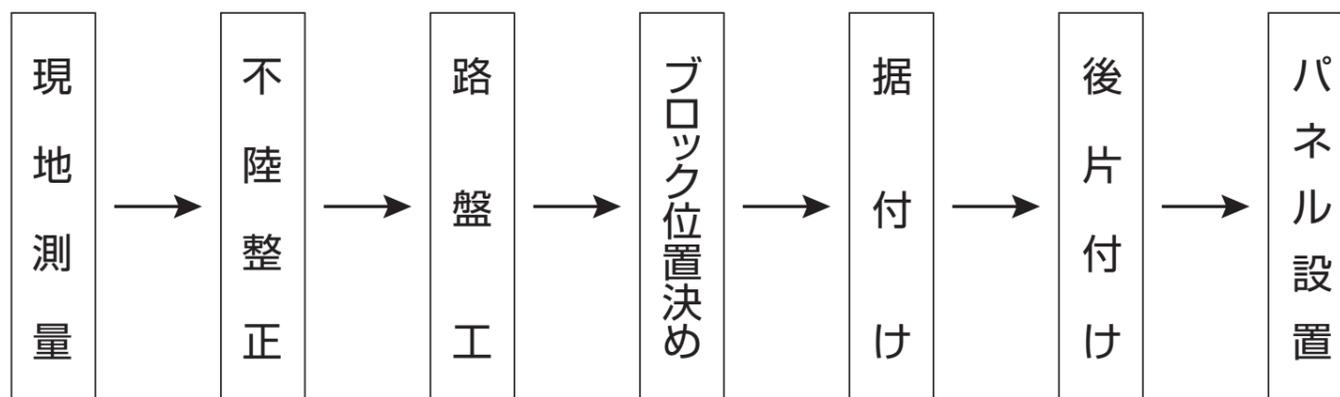


※1.架台角度は10度と20度に対応し、設置スペースに合わせて基礎ブロックの位置が簡単にアレンジできます。

※2.設置場所の条件により基礎ブロックの使用範囲は異なりますので、必ず荷重計算を行ってください。

# ソーラー基礎ブロック

## 施工手順



事前に現地測量を行い、計画高の設定やブロックの配列図を作成します。軟弱地盤の場合には、地盤改良等の対策が必要です。



雑草などを伐採してから、モータグレーダで地盤を不陸整正し、振動ローラーにて転圧します。

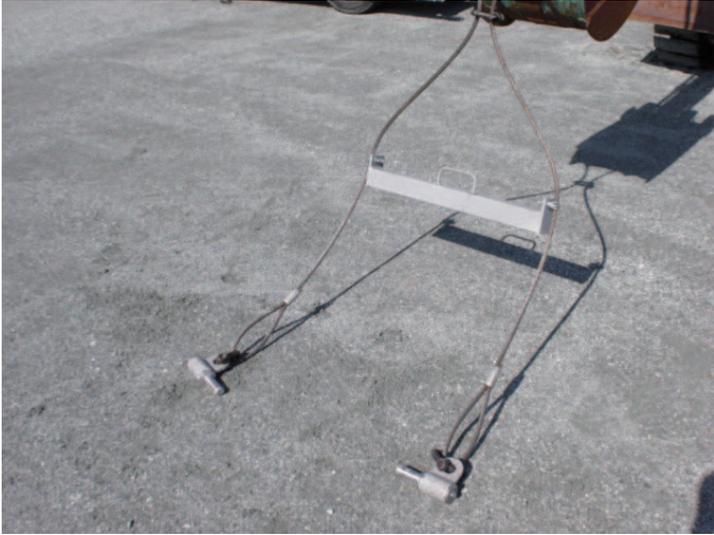


砕石（粒調砕石 or クラッシュラン）を15～20cmほど敷均すと、防草対策としての効果があります。



ブロックを設置するために、丁張を上げます。高さが高すぎる又は低すぎる場合には、バックホウにて調整してください。

# ソーラー基礎ブロック



ブロック用の専用金具にて、ブロックの吊上げと反転を行います。ワイヤーとシャックルは各自で用意してください。



ブロックを所定の位置に設置します。



基礎完成後、パネルの設置作業に入ります。



パネル設置完成